



図1 出口雄樹、岩泉慧 二人展「Resonance」 展示風景Ⅰ @ギャラリー八坂茶閑 京都



図4 Bipod 出口雄樹

アクリル板 メッキ塗料 エフェクト顔料 ピグメント



図2 Ripples 出口雄樹

アクリル板 メッキ塗料 エフェクト顔料 ピグメント

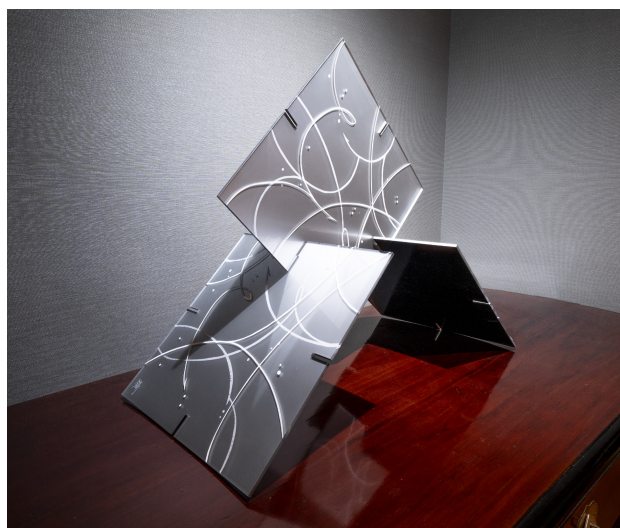


図3 Bipod 出口雄樹

アクリル板に切り込みを入れ、アクリル板を変形可能な様式にした





図5 展示風景Ⅱ Boundary of different branches 岩泉慧

木枠にグラスオーガンジー 光学素材 エフェクト顔料



図6 Boundary of different branches 部分拡大

光学素材とグラスオーガンジーを掛け合わせた光の屈折を利用した作品

2023年度の特別制作研究助成の表現研究の成果として行った展示、「[Resonance]」の展示風景と作品写真です。

2022年度の特別研究では「日本画における新しい質感表現の研究」として、日本画では一般的ではない反射系素材を含む現代の新素材を用いて制作を行い、その可能性を追求、展覧会形式で発表することで日本画と現代の画材の新たな可能性を世に提示した。

2023年度は、昨年の表現研究を更に発展させるべく、反射材のみでなく透過する素材を取りこみつつ、日本の伝統的な「設え」の考え方を空間へ応用し、行った展示です。

今回は展示会場を前回のホワイトキューブ形式であった東京のUNDEL GALLERYとは性質を異にする数寄屋造りの展示空間「ギャラリー八坂茶閑」で、自然光や空間様式を利用した作品制作を行った。出口はアクリル板とメッキ塗料を応用し、流水文様を現代的にアレンジした作品制作を行い、岩泉は光学素材とエフェクト顔料を応用し、禅思想に基づいたコンセプチャルな作品を制作した。

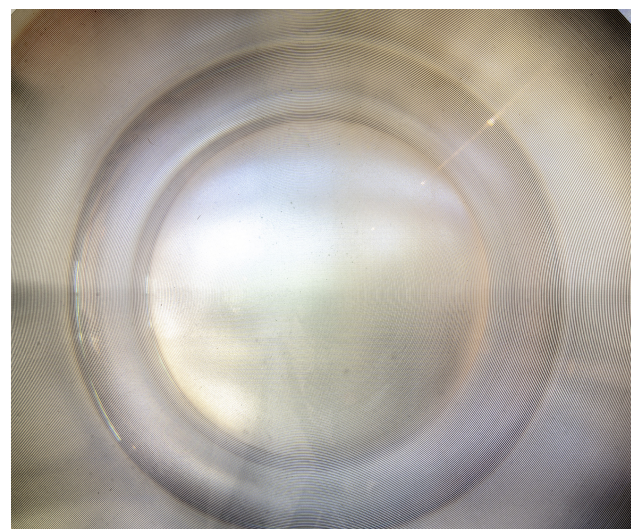


図7 Boundary of different branches

図6と掛け合わせる素材を変えたVer.